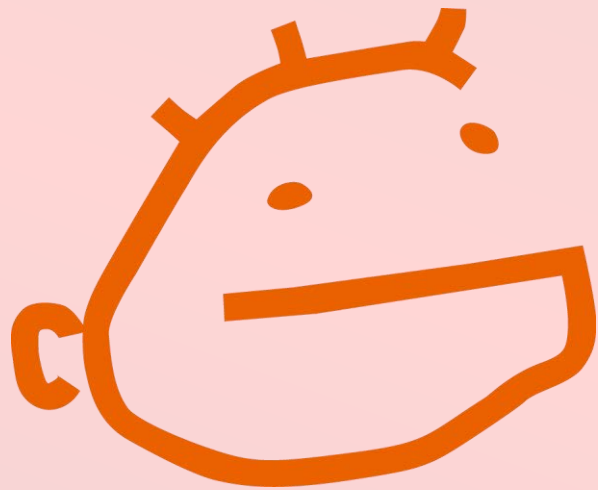




Good Friends Save the Children



GFSC 希望のチャリティー プロジェクト

文化芸術を通じた夢・希望 アジア貧困地域子ども教育支援&東日本復興推進プロジェクト



NPO法人日韓文化交流会

GFSC(Good Friends Save the Children) チャリティーキャンペーン ＜文化+奉仕: K-Charity＞

当NPO法人は、持続的に**文化芸術**と**GFSCチャリティーキャンペーン<文化+奉仕: K-Charity>**を通し、困難に疲弊する国内外の子どもたち、特に災害で苦難に見舞われた東日本地域の方たちへ、愛と希望のGood Friends活動を、10年間余りに渡り、あたたかい多くのアーティスト、ファンと協力し、GFSC社会貢献プログラムを共に推進し、“Love & Hope”というメッセージを発信し、持続的にそして積極的に善なる韓流活動を拡大することに努めています。



IU



東松島市交流まつり



BTS



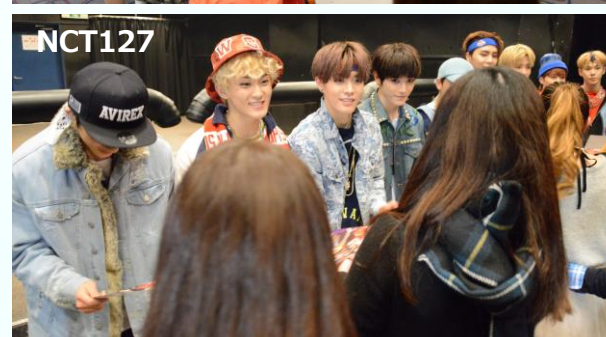
GFSCチャリティー



SISTAR



東松島市がんばっぺみんなの夏祭り



NCT127



BTS児童福祉施設訪問



Good Friends Save the Children

文化芸術を通した夢・希望プロジェクト

当特定非営利活動法人が推進している **GFSC** (Good Friends Save the children) は、文化芸術を通し、アジア貧困地域子供教育支援及び東日本復興支援活動を中心に実質的な手助けと、希望と勇気を後援者の皆様の温かいご声援のもとに、真心をこめた「文化芸術を通した夢・希望プロジェクト」を推進しています。

国内活動

3.11 東日本大震災の発生により、被災地の子供・家族・崩壊されたコミュニティへの支援及び復興を最優先の課題と考え、**宮城県東松島の復興祭支援、宮城県**で犠牲になった子供の鎮魂と復興のシンボルとなった「**青い鯉のぼりプロジェクト**」、そして宮城県で最も被害の大きかった石巻市雄勝中学校の皆さんに伝承されてきた太鼓を通して希望・夢をもっといざとく和太鼓支援及び指導者派遣のワークショップを支援を通した精神的なトラウマを癒し克服するため「**DRUM Hope 希望の和太鼓プロジェクト**」、三陸で被害が大きかった岩手県大船渡では、仮設住宅の破壊されたコミュニティの構築の為、韓国語講座及び文化教室開設などを通し、仮設住宅に住む住民たちの交流と励み、心の癒しなど多様な「**希望のコミュニティ形成プロジェクト**」を支援。



海外活動

SDGsの開発目標である[1.みんなのための良質な教育、2.貧困層の減少と社会安定網の強化、3.食糧の安全保障及び持続可能な農業強化、4.健康で幸せな人生の保障、5.ジェンダー平等の保障、6.健康で安全な水管理]に寄与する**GFSCチャリティー事業**(**モンゴル食水・希望の教室支援プロジェクト** / **ネパール希望図書館建設支援プロジェクト** / **カンボジア教育環境・希望の教室支援活動**)を展開しています。



〈日本国内支援活動〉 GFSC 文化芸術による東日本復興支援プロジェクト

Pray for Japan 東日本チャリティーキャンペーン

2011.5.14

本プロジェクトはK-POP、J-POP公演が中断された後、震災後初めて〈Pray For Japan〉のテーマで、**GFSC東日本チャリティーキャンペーン**である「東京伝説」を『さいたまスーパーアリーナ』で開催する中、震災後初行事として日韓両国のスターと多くの方々からの東日本大震災復興へ応援メッセージと激励を受け、東日本復興支援活動を本格的にスタートした。

GFSC東松島市がんばっぺみんなで夏祭り支援〈宮城県〉

2011.7.23

東松島市の震災後初の〈がんばっぺみんなで夏祭り〉に生活日用品および**韓国料理炊き出し**や**韓国文化芸術者の派遣**など地元の方々との日韓交流と復興に貢献
〈東松島市より2012.3.11感謝状授与〉



GFSC 希望の和太鼓プロジェクト I <宮城県>

2011.7.22

当法人と雄勝中学校、地元支援団体と三者による希望の和太鼓プロジェクト復興支援調印を取り交わし、まずは**和太鼓を贈呈**。「たくましく生きよ!」というキャッチフレーズで、**和太鼓ワークショップを支援**。太鼓を打ちながら子供達の心が癒され、子供たちの心のケアと町復興、そして日韓交流を通し大震災のトラウマを乗り越える支援活動を開始した。
(参考までに宮城県石巻地域は日本植民地時代韓国の若者たちの恩人のイ・クオン弁護士のご郷である)

和太鼓贈呈及び復興支援調印式



和太鼓ワークショップ (古タイヤの太鼓で練習)



KMF2011公演に招待、雄勝中の輪太鼓 初発表の場



2011.9.19

当法人が主催する伝統する「GFSCチャリティイベントKMF2011」に雄勝中学校の生徒を東京に招待し、日頃練習してきた太鼓演奏の発表の場を提供。「これが全てのはじまりでした」と教員の一人が感慨深げに語られたように石巻市からの初の遠征となった。彼らの演奏する黒船太鼓の力強い演奏は韓国のトップアーティストの音楽に勝るとも劣らぬ感動を観客に届け会場から割れんばかりの拍手が贈られた。

翌20日は都内の中央区立 佃中学校生徒と初の太鼓による交流に協力。この行事がマスコミにも取り上げられ、希望の和太鼓プロジェクトにさらに拍車をかけることになり、これによりさらに交流が広まるきっかけになった。



都内・佃中学校生徒との初太鼓交流



2012.8.19~23

“KMF2011”で「**韓国に行ってみよう!**」と語った生徒のコメントを聞き、子供達に韓国の文化や美しい自然に触れ楽しい思い出を作ってもらうべく、2012年8月19日から8月23日まで、雄勝中学校教員・生徒全員及びワークショップ支援協力地元文化芸術団体を対象に“希望・夢 韓国の旅プレゼント”を実施。



韓国三政中学校と日本雄勝中学校の学生たちは、お互い太鼓を叩きながら交流し友情を深めた。



日韓関係が政治的には厳しいけれど、こんな時こそ民間交流は大事であると語るソウル市長



多くの日韓のメディアがこの行事を取材しながら、今すぐ困難な日韓関係を超え、今こそ民間交流の継続性の重要性を訴えた。



韓国の古宮である昌徳宮を観覧しながら歴史も勉強し、韓国の文化を体験



韓国仁寺洞広場での日韓の伝統楽器交流が出来た歴史的な日韓交流公演

雄勝中学校全生徒は今回の希望・夢韓国の旅プレゼントによって津波の記憶に美しい友情の花が咲いた。



日韓文化交流によって私たちは友人になりました！



ロッテワールドでの楽しい時間

3年間寄り添った子供たちの卒業と感謝状の贈呈

2014.3.8

2011年4月、震災の混乱と悲しみの中、夢や希望も見いだせず、私服で入学式を迎えざるをえなかった新入生が、2014年3月8日(土)16名、雄勝中学校を巣立った。

“GFSC希望の和太鼓プロジェクト”として3年間寄り添った生徒たちの、凜とした中にも心温まる素晴らしい卒業式・卒業をみんなで祝う会が挙行された。

地元に伝承された“和太鼓”を基に音楽という文化芸術を通じた復興推進により子供達の笑顔が輝いた。



校長先生より当法人のGFSC希望の和太鼓プロジェクト支援に対し“東日本大震災以降継続して雄勝中学校生徒の為に格段の尽力をせられ生徒の心豊かな成長を願い復興と教育の振興に寄与されました。”と当NPO法人に感謝状が贈呈された。

当NPO法人が特別に雄勝中学校に贈呈したオリジナル曲“ねがい〜たくましく生きよ〜”を演奏



GFSC希望の和太鼓プロジェクト支援に対し当NPO法人に感謝状・花束が贈呈された



2014. 3月

石巻市雄勝中学生・同卒業生たちが仙台市(3月13日)と東京都(3月20日)で開かれるコラボレーション音楽会「世界がわが家」に出演。この音楽祭はミュージカル「レ・ミゼラブル」などで知られる英国人演出家ジョン・ケアードさんが趣旨に賛同しボランティアで演出を担当。アフリカの遺児支援と東日本大震災の犠牲者鎮魂の思いを込め、雄勝中学生の力強い和太鼓演奏と米国・バスター大の学生のコーラス、ウガンダの子どもたちの歌や踊りの競演と、国際色豊かなステージを披露した。



ウガンダの子供たちの元気溢れるダンスに合わせて輝く笑顔で太鼓を演奏！

音楽会のタイトルには「どんなに苦しいことがあっても世界中の人たちが家族のように応援している」というメッセージが込められている。15年には米国、欧州、アフリカを回る世界ツアーも計画しているそうだ。
世界に羽ばたけ！雄勝中のみんな！

2014. 9.28

当法人が支援する岩手県大船渡夢さんま祭りに石巻市雄勝中学校3年生は片道3時間を掛けての遠征応援に駆けつけた。その太鼓の演奏は聞く人の心を勇気づけた。雄勝中学生は震災直後より太鼓やワークショップ・オリジナル曲(ねがい〜たくましく生きよ〜)を提供した当法人へ感謝の気持ちを込め、その恩返しが出来たら嬉しいと語った。そして、自分たちも震災で全てをなくしたが、太鼓を打つことで希望をもって元の生活を取り戻してゆきたいと話す。苦難を乗り越え、人を勇気づけるまでに成長した雄勝中学生のたくましい姿が見て取れた。



宮城県被災地の子供たちが岩手県の被災地を激励

2011年3月11日、東日本大震災の日、「青い鯉のぼりプロジェクト」の発起人である伊藤健人君は、最愛の家族である母と弟、祖父母のを4人亡くしました。

享年5歳の弟、律君は毎年5月5日に「青い鯉のぼりは僕だね！」と言って鯉のぼりを揚げるのを楽しみにしていたといいます。

「青い鯉のぼりプロジェクト」は、兄の健人くんが小さな弟の亡骸に直面した時、この声が耳元で蘇り、崩れた自宅跡から泥まみれの青い鯉のぼりを探し当て、自宅の庭後に揚げたのが始まりでした。

震災で亡くなった子供たちが天国で寂しくないように追悼の思いと震災復興のシンボルとして、毎年5月に「青い鯉のぼり」が掲げられています。

2011 9.25 青い鯉のぼりと東日本大震災復興と 追悼の邦楽コンサートM's Japan Orchestra



当法人が共催者として協力する雄勝中学校、太鼓の指導者である地元芸術団体による青い鯉のぼりプロジェクトM's Japan Orchestraの震災後初の追悼コンサートを共同開催。当法人は韓国芸術者の派遣や炊き出し支援を行い参加各団体と日韓交流を持った。地元支援者に勇気と希望を与え復興再生の力を与える地元初イベントとなった。

2012 5.5 青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.1



住民のみなさんが故郷に戻って来ました。一緒に掲揚作業をし、一緒に瓦礫の大地に腰を下ろし、語り合いました。

2013 5.5 青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.2

東松島市地元の方々、文化芸術者団体太鼓チームと共に、この集いが天国に逝った子供達の追悼と災害復興のシンボルとしての〈祭り〉となるよう協力団体として継続して支援活動を行う。震災後、住民はかつての故郷を離れての生活を余儀なくされ、故郷の地に足を向けることもない。

〈祭り〉の場としてこの地に集まり、伝承されてきた故郷の太鼓演奏を聞きながら、再開の喜びを語り合い、共に過ごす時間の共有を通して崩壊したコミュニティの再生に繋がるよう動力し、また現地では参加者たちに、**韓食**（チヂミ・トッポッキ）なども提供しながら日韓文化交流も実践した。



2014 5.5 青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.3

今年の宮城県東松島市大曲浜は震災復興事業の為に地面のかさ上げ工事が進む中、今年も3.11より順次、400匹の青い鯉のぼりが掲げられ、風に乗り元気に泳いでいた。この日集まった地元の方、ボランティアで残り200匹の鯉のぼりを揚げ総計600匹の鯉が空を青く染めた。

発起人の伊藤君に、当法人も賛同協賛し作成された家族の思い出が詰まった**実家の樫の大黒柱を使った再生太鼓が贈呈され**、「皆さんの温かい思いが形になった太鼓を頂き言葉にならないほど嬉しい。明日からの活力になります」と答えた。 **震災後、彼の大きな支えとなったのは音楽だった。**



2015
5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.4

宮城県東松島市大曲浜は、復興事業の地面のかさ上げ工事が昨年よりさらに進み、今日を待って鯉のぼり掲載地区もかさ上げ工事が進められることとなる。当NPO法人日韓文化交流会スタッフ及びボランティア参加者たちで今年も震災で亡くなった子どもの追悼、震災を風化させない決意、コミュニティ再生を目指し、予てより手を携える諸芸術団体と共に支援活動に爽やかな汗を流した。仮設住宅に暮らす皆さんにキムチ鍋とラッポッキを炊出し提供。



当会の会員・GFSC後援者のメッセージを入れた鯉のぼりを寄贈



会場来場者から、集まった“青い鯉のぼりチャリティー募金”を全額寄付

2016
5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.5

今年は復興事業による嵩上工事のため、昨年までと会場を変え大曲浜共同慰霊碑のある宮城県東松島市萬寶院仮本殿前において“GFSC青い鯉のぼりプロジェクト支援”として、震災で亡くなった子どもの追悼、震災を風化させない決意、コミュニティ再生を目指し、予てより手を携える諸芸術団体と共に支援活動に爽やかな汗を流した。韓国おでんとお馴染みになったトッポッキを炊き出し。



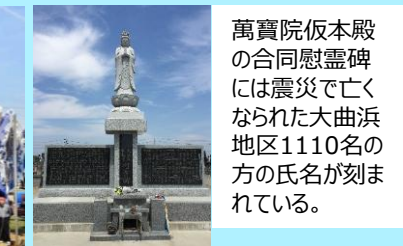
発起人伊藤健人さんが自ら描いた青い鯉とクマモンの絵柄の募金箱で声掛け。2016年は熊本地震災害協力として全額「全九州太鼓連合」熊本地震義援金窓口へ送金された。



2017
5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.6

昨年に続き大曲浜地区の共同慰霊碑のある萬寶院仮本殿前で開催。今年も予てより手を携える諸芸術団体と共に支援活動に爽やかな汗を流した。今年の炊き出しメニューは韓国おでんと甘辛餅のトッポッキ。韓国食の食文化交流も6年目を迎え地元でもすっかりお馴染み！各200食も瞬間に完食した。また、地元ふるさとを表す曲目“陸奥（みちのく）”の演奏では、当法人が震災直後より“GFSC希望の和太鼓プロジェクト”で3年間寄り添った石巻市雄勝中学校の在学生・OBからなる太鼓チーム“沙嵐”も演奏に加わり地元応援に勇姿を披露した。



萬寶院仮本殿の合同慰霊碑には震災で亡くなられた大曲浜地区1110名の方の氏名が刻まれている。

2018
5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.7

この日の宮城県東松島市は、早朝に町を洗うかのような雨の後、爽やかな五月の風吹く朝であった。
今年も会場は、大曲浜地区の共同慰霊碑のある萬寶院仮本殿前。
今年の炊き出しは、韓国食“トッポギ”と子供達に食べやすいラーメン入り“ラポッギ”。炊き出しを召し上がる皆さんに、募金の声掛けをし、この7年間当法人と手を携え東日本復興支援を支えてきた実行委員長を通し**全額寄付**。また**NCT DREAM**などの人気K-POPアーティスト等の手書き応援メッセージが入った**GFSC青い鯉のぼり**を贈呈。前日までに揚げられた鯉のぼりと共に、五月の風の中、元気に泳いだ。
会場では、宮城県内陸部の太鼓チーム、歌手が参加し演奏が繰り広げられる。発起人伊藤健人さんも幼いころ舞っていたという地元大曲浜に江戸時代より伝承される大曲浜獅子舞も披露され、地元ふるさとを表す曲目“陸奥（みちのく）”の演奏では、当法人が震災直後より3年間“GFSC希望の和太鼓プロジェクト”で寄り添った宮城県石巻市雄勝中学校のOBの姿も見られた。



NCT DREAMがメッセージを書き入れ



2021
5.5

コロナ禍の中 青い鯉のぼり リモートプロジェクト 2021-風を興す

2021.5.5. 12:00～
SNSにて作成映像と共に
一斉投稿でメッセージ発信

青い鯉のぼり
リモートプロジェクト
2021-風を興す-
開催！

2021.5.5 12:00～
一斉投稿開始！
#青い鯉のぼり2021

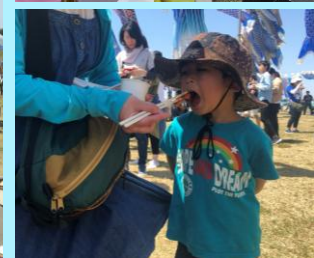
2021年、新型コロナウイルス感染症の流行により、例年とは異なり、大曲浜地区の共同慰霊碑のある萬寶院仮本殿前で、大曲浜地区の方々が多数移住された“あおい地区”に会場を替え開催され、会場には前日までに揚げられた500匹の鯉のぼりが五月の風に乗れ、元気に泳いでいた。

ここに集まって来られた皆さんに、ひと時の癒しと明日への元気に繋がればと、今年の炊き出しメニューは、こちらでもすっかり馴染みの“キムチチヂミ”と、子供達も大好きなラーメンが入り、少量のチーズのトッピングで辛さもまろやかに工夫された“チーズラポッギ”。沢山の方々に食していただき、たくさんの笑顔をいただいた。炊き出しを召し上がる皆さんに、募金を声掛けし、全額、「青い鯉のぼり基金」に寄贈のため、青い鯉のぼりプロジェクト代表 伊藤健人さんに手渡した。

2019
5.5

青い鯉のぼりの下に腰を下ろす会 vol.8

元号が令和となり初めての5月5日、宮城県東松島市は雲一つない晴天、爽やかな五月の風吹く朝であった。
今年から、青い鯉のぼりプロジェクト発起人の伊藤健人さんの自宅のあった大曲浜地区の方々が多数移住された“あおい地区”に会場を替え開催され、会場には前日までに揚げられた500匹の鯉のぼりが五月の風に乗れ、元気に泳いでいた。
ここに集まって来られた皆さんに、ひと時の癒しと明日への元気に繋がればと、今年の炊き出しメニューは、こちらでもすっかり馴染みの“キムチチヂミ”と、子供達も大好きなラーメンが入り、少量のチーズのトッピングで辛さもまろやかに工夫された“チーズラポッギ”。沢山の方々に食していただき、たくさんの笑顔をいただいた。炊き出しを召し上がる皆さんに、募金を声掛けし、全額、「青い鯉のぼり基金」に寄贈のため、青い鯉のぼりプロジェクト代表 伊藤健人さんに手渡した。



2013
10.13

震災後、支援し続けてきた岩手県大船渡市 夢商店街の地域住民と連携して“夢さんま祭り”を応援、また共催するため札幌・東京の会員の皆様、被災地を応援する韓国各企業、文化芸術者と合わせて62名が参加した。前回の夢さんま祭りの3～4倍の集客があり、かつてAKBや安倍首相がこの地を訪問した時に勝る人出で盛り上がった。GFSC広報大使でもある韓国実力派ボーカリストFIXの熱唱、地元大船渡東校の伝統の大農太鼓の力強い演奏、宮城県石巻市雄勝中学校を我々と連携して支援する文化芸術団体の復興志縁有志“福面”による和楽器演奏が行われた。

大船渡名物の“さんま”を使った、食の日韓コラボ“夢さんまキムチ鍋”を炊き出し無料提供。初披露された“夢さんまキムチ鍋”は大好評で、わずか20分で完食となった。

“夢さんま祭り”は“食”と“観光”と“音楽”を連携した、文化芸術を通した町興し・復興の第一歩と実感する一日になった。

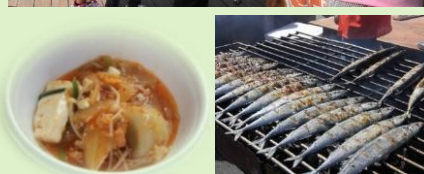


初披露！
「夢さんまキムチ鍋」に
長蛇の列！！



2014
9.28

「夢さんま祭り」支援2年目。今年も夢商店街の熱い要請に応え札幌、東京からの応援団そして韓国企業と共に総勢85名で町興し復興に繋げる応援に参加。会場では、昨年の2倍の炭火焼きさんまや大船渡の新名物“さんまぱっとう”（さんまのすり身入り団子）を使ったNEWバージョンの日韓コラボ夢さんまキムチ鍋を500食無料提供。会場は昨年の集客を更に3倍も上回る人々が集まり盛大な盛り上がりを見せた。舞台ではGFSC広報大使の「MR.MR」の2回にわたる無料チャリティーライブや、当法人が3年間支援した宮城県石巻市雄勝中学校3年生の当法人への感謝と恩返しの気持ちを込めた遠征参加公演、当法人と青い鯉のぼりプロジェクト支援を共にする創作和太鼓駒の会の演奏で大いに盛り上がった。NPO法人日韓文化交流会とGFSCは文化芸術を通して東日本の復興推進活動を今後も継続していく。



2015
9.27

当NPO法人日韓文化交流会と夢商店街（地域住民）、韓国協賛各企業が手を携え盛り上げ第3回目を迎える“夢さんま祭り”もこの場所での開催は今回が最後となる。

北方でのサンマ漁が海域問題で難しくなり若干低迷していたさんまの水揚げだが、祭り前日に祭りを祝うかのように、それまでの3倍の大漁に恵まれ、会場では2000匹の炭火焼きさんまが無料提供された。

GFSC広報大使MR.MRが昨年に引き続き2回にわたる無料チャリティーライブや、初出場の日韓音楽交流アイドル4 Ccrewのチャリティーライブ、そして地元大船渡東高校・太鼓部演奏や、震災直後より当NPO法人と共に手を携え復興支援を推進してきた宮城県文化芸術団体有志による福面の公演が繰り広げられ祭りを大いに盛り上げた。



夢さんまキムチ鍋
2015バージョン
「美味しいね～！」
と絶賛！



～手をつなごう日本 頑張れ！！岩手大船渡～ 岩手×GO！GO！大船渡さ あべ！

2016
9.25

岩手県大船渡市茶屋町の仮設 夢商店街で“第4回夢さんまつり”が開催された。

夢さんまつりは震災後岩手「大船渡市」地域住民（夢商店街）と文化芸術を通して東日本復興支援活動を推進するNPO法人日韓文化交流会とが連携して夢商店街の復興と活性化のために力を合わせて開催するイベントであり、今回で4回目となる。

会場では、2000匹の炭火焼さんまや当法人のバージョンアップした**日韓コラボ夢さんまキムチ鍋500食が無料提供。**

舞台ではGFSC広報大使の「MR.MR」の2回にわたる無料チャリティーライブ、陸前高田市から氷上共鳴太鼓の演奏、当NPO法人と共に手を携え復興支援を推進してきた宮城県文化芸術団体有志による福面の公演で祭りを大いに盛り上げた。



2018
9.30

新夢商店街とキャッセン大船渡を会場に“夢さんまつり”のバトンを繋ぐ復興祭りが開催された。

震災復興が進み仮設夢商店街の撤去が決まり、震災後2011年12月より苦楽を共に歩んできた仮設夢商店街は、2017年4月29日に新夢商店街とキャッセン大船渡に分かれ新たな道を進む事となった。6年にわたり地元大船渡地域住民と縁を繋いできた当NPO法人は、今年2018年、この縁深い2つの商店街と手を携え、**5回目**の復興祭りの企画・開催に至った。

あいにくの雨ではあったが、会場では2,000匹の炭火焼さんまや**日韓コラボ“夢さんまキムチ鍋”を500食無料提供。**舞台では、K-POPアーティスト「Apeace」が**2回の無料チャリティーライブ**を開催。地元からは、浦浜念仏剣舞が披露。また、当NPO法人と約8年間手を携えて復興支援を推進してきた宮城県文化芸術団体からは、SAMURAI APARTMENTOの公演で祭りは大いに盛り上がった。



2013.4.19～21

GFSC広報大使としてK-POPアーティストの‘FIX’が福島復興祭りで企画された「ふくしま&韓国・食の祭典2013」に参加してチャリティ公演をし、郡山の人たちを魅了しました。今回の祭典は食を中心して日韓文化交流と福島食の安全性を対外にアピールする目的で、郡山に避難している被災地の住民たちも多数参加しました。

郡山市日和田ショッピングモールで開かれた祭典で‘FIX’は毎日2回公演し、歌だけではなく、子供たちのためのダンス教室で子供たちとの触れ合い時間も持ちました。そして、町全体が避難されている富岡町には支援物資も手渡しました。

福島食の安全をアピール



4月の雪舞う中渾身の力を込め毎日2回のステージでエールを送ったGFSC広報大使“FIX”



踊る子供の姿こそ福島の希望



大震災と原発事故で町全体が避難された富岡町に支援物資贈呈



2012.8.6～8.9

韓国大使館主催、当法人主管の日韓高校生による韓日高校生友情CAMP＜高高Summer！2012＞において、両国は初めて最近社会的ニュースになっている日韓両国の共通の問題点「いじめ」をテーマに、実際いじめを受けた学生も多数参加し、専門家も交え討論、ロールプレイ、共同絵書き等により明るい未来・希望に向け交流をもった。両国の高校生は文化の違いの壁を、寝食を共にし、互いの言語を使う買い物体験や、言葉を必要としないダンスの練習等により文化の壁を乗り越え、さらに日韓友情を深めた。



いじめは絶対ダメ！友情を深めよう！



いじめに対する討論会



日韓高校生友情の木記念植樹 ～高麗神社～



バーベキューでお互い焼いてあげて親睦を深める



いじめに関するロールプレー



いじめに対して日韓の高校生が真剣に取り組む姿をNHK,KBSなどが取材した



良い友だちにな리ましょう！と誓う
日韓高校生たちーキャンドルセレモニー

子供達に夢と希望をプレゼントする韓国アーティストの児童福祉施設訪問は、2010年の「第61回さっぽろ雪まつりK-POP FESTIVAL2010」に出演したSHINeeからの申し出により開始致しました。

これまで、シウオン(SUPER JUNIOR)、BTS、n.SSign、Red Velvet、(G)I-DLE、NATURE、NU'EST、MR.MR、ZE:A、キム・ナムギルなど韓国を代表するアーティストが札幌、埼玉の児童福祉施設を訪問し、逆境にも負けずに元気に頑張る子供を励まし、プレゼント贈呈やゲームと一緒にするなど、温かい交流を継続的に行っております。

子供達に夢と希望をプレゼントする触れ合いの交流は、子供達だけでなくアーティストにとっても忘れられない思い出として刻まれています。

2010年4月18日 俳優キム・ナムギル訪問



埼玉県

2019年6月22日、8月5日 シウオン (SUPER JUNIOR) 訪問



GFSC 児童福祉施設支援及び交流 VI

北海道（札幌）

2010年2月7日 SHINee 訪問



2012年2月10日
ZE:A 訪問



2013年2月8日
BIGSTAR、D-UNIT訪問



2014年2月7日
NU'EST、MR.MR訪問



2014年9月2日室蘭、9月9日札幌
MR.MR 訪問



2015年2月6日 C-CLOWN 訪問



2016年2月5日 BTS 訪問



2017年2月10日 Red Velvet 訪問



2019年2月8日 (G) I-DLE 訪問

2018年2月9日TARGET 訪問



2020年2月7日 NATURE 訪問



2020年2月8日
第71回さっぽろ雪まつり
12th K-POP FESTIVAL 2020 公演招待



2023年2月10日 n.SSign 訪問



2024年2月9日 安達祐人 訪問



2025年2月10日 MYTRO 訪問



GFSC韓国文化体験イベント 2019年11月23日〈札幌〉

子供達がGFSCサポーターズと一緒に韓国文化体験をしながら直接ふれあう「GFSC韓国文化体験イベント」を、初の試みとして実施。



「ホットク」、「ソットクソットク(ソーセージ+お餅)」の韓国料理作り、韓国語の挨拶を使ったじゃんけんゲームで交流

毎年、手作りキムチ、クリスマスにはお菓子をプレゼントしています



2020年4月手作りマスクをプレゼント



興正学園 興正フェスタ（学園祭・札幌市）

2023年9月9日（土）



韓国本場の味のチヂミ&フルーツエイドドリンクの韓国屋台の依頼を受け出店、日韓Dance de SmileによるK-POPカバーダンス披露

2024年9月7日（土）

昨年の好評を受け、
韓国チヂミの屋台を出店協力
本場の味は大好評！



NPO主催公演に子供たちを無料招待 VII

NPO法人日韓文化交流会では、文化・芸術を通し子供たちの夢と希望を応援するGFSC Charity Campaign Concerts【KMF、さっぽろ雪まつりK-POP FESTIVAL、東京伝説2011、GFSC Good Friends Charity Premium Concert 等】を運営しています。

これまで、K-POP&韓国文化に関心がありながらも、生まれ育った環境や地域のために苦しい思いをしている子供たちが、**音楽を楽しむ機会を得て、韓国文化に触れる機会を作ってあげたい**との思いから、協力関係を結んできた諸団体を通し**運営をしている公演に子供たちを無料招待**してきました。

「東京伝説2011」東日本大震災で被災した子供たちを無料招待 (2011年5月14日：さいたまスーパーアリーナ)



「16thKMF2024」ヤングケアラーの子供たちを無料招待 (2024年10月6日：横浜アリーナ)



「さっぽろ雪まつりK-POP FESTIVAL」児童養護施設の子供たちを毎年無料招待 (札幌)



NPO法人日韓文化交流会は予てよりGFSC（Good Friends Save the children）として長い間日韓協力によるアジア貧困地域子供教育支援をおこなってきました。日韓の大学生や市民が毎年参加し、モンゴルでは希望の学校（After School）食水支援、ネパールでは図書館建設及び図書支援、カンボジア教育環境支援プロジェクトなど子供達に希望と勇気を与え美しい一つのアジアを作る未来指導者を育成して行くグッドフレンズプロジェクトを推進してきました。



モンゴル食水・希望の教室支援プロジェクト

(2009.7.23～
(2011.6.26～7.4)

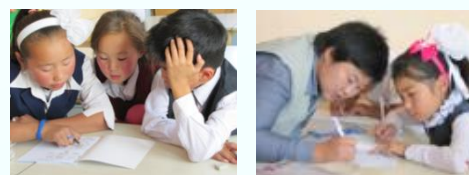


マンダル村長より感謝牌を受ける
その様子はモンゴルのメジャーテレビ
局のUBSニュースで紹介された



食水支援の井戸掘削活動

水汲みの仕事をして親を助ける為、学校に通えない子供達。
非衛生的な水で様々な疾病を引き起こす子供達
健気に頑張る子供達を温かく支えます



モンゴル希望の教室（After School）

モンゴル、ウランバートルの劣悪な教育環境であるチンギルテ地域で貧困層の子供たちのためにアフタースクール運営に支援。
殆どの子供たちは学校が終わって家に帰っても電気不足と生活環境が大変なので勉強が出来ない状況である。この中で「希望の教室」は子供たちに新しい希望を与える場所になっている。



幼稚園の環境改善活動



ネネパール希望図書館建設支援プロジェクト (2012.1.9～15)



ネパール、海拔2400Mの山頂にあるブミマタ学校。

地域住民自治会と学校の要請企画に、ネパールNGO団体とGFSCが手を携え協力した。

図書館建設にカマチャヤ校長は、教科書以外に本を持っていない学生に希望と喜びを与えることとなるだろうと話し、地域指導者の育成につなげたいと情熱を語った。

GFSCはこの図書館プロジェクトを継続的に続ける為、本と建築用ブロック寄贈キャンペーンを実施。



図書館は小さくても希望は大きい





カンボジア教育環境・希望の教室支援活動（2013年1月7日～14日）

トイレ建設と希望の教室（After School）運営などを支援します！

カンボジアのプニー柱住民たちは所得が月50～100ドルで、主に農業中心の農村貧民地域です。プニー学校は図書館もトイレもない学校です。今、子供たちが学校生活で一番困っているのは学校にトイレがないことです。校長先生は“学校環境があまりに劣悪だ。校舎1つに4教室しかなく、教師も不足している。図書館、職員室、給食室もないが、何よりトイレがないのが一番厳しい。”と語る。

長い内戦がようやく終わり、変化が続いているカンボジアだが、まだまだ教育施設は整備されず、多くの子供たちは厳しい環境に置かれている。しかし厳しい環境の中でも、住民たちは教育に熱心な関心を持っている。GFSCはカンボジアの子供達だけでなく、多くの人々に希望を持ってもらうべく支援します！



授業は午前中で終わる為、放課後に行なう「希望の教室」は、生活礼儀を身に付けられると、学校側も住民たちも大歓迎した。



特に、衛生問題で重要な役割を果たすトイレ建設が強く求められている。

報道紹介

KBSニュース 2012年8月22日

東日本大震災の日本の学生
“韓国ありがとう”



<アンカーコメント>

日韓両国間の関係は非常に冷たくなったが、温かい情を分け合おうとする民間の交流は止まらなかった。昨年の津波被害の時に、韓国から援助を受けた日本の中学生たちが感謝の気持ちを伝えようと、私たちの国へやってきました。

<レポート>

おじいさん、おばあさんの前で日本の伝統の太鼓を何度もたたく学生達

昨年の日本の津波被災地域から来た学生達だ。

当時、韓国から送られた援助に感謝の意を伝えようと慰問公演に来ました。

<インタビュー> 牧野(石巻市立 雄勝中学校 学生)：「地震で母が亡くなりました。優しさを感じ取ってもらえるように。」

韓国の中学生たちと太鼓演奏の交流もしました。

ソウル市を訪問して、消防官の救助活動と支援に感謝を伝えた。

<テープ> 「韓国の方たちの恩を忘れません。」

故宮を訪れ、韓国の伝統文化にたいする理解も広がりました。

恩返しのための訪問だったが、思いもよらないおもてなしに、日本の学生たちは再び感動した。

<インタビュー> イ・ドウス(NPO法人日韓文化交流会 企画部長)：「韓国の皆さんが温かく接してくれるのを見て感動と感激し…」

日本の学生たちは、韓国の学生たちの日本の訪問を推進する、相互交流を継続していくことにしました。竹島の問題で、日韓葛藤が深まっていますが、災害支援と恩返しをきっかけに、一つの民間交流は続いています。

NHK 2012年8月22日

被災地中学生 韓国で太鼓演奏

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた宮城県石巻市の中学生が韓国を訪れ、韓国からのさまざまな支援への感謝の気持ちを伝えようと、太鼓の演奏を披露しました。

日韓の交流事業を行っているNPOの招きで今週から韓国ソウルを訪れているのは、石巻市立雄勝中学校の生徒と教員ら合わせて79人です。

生徒たちは、韓国から被災地に寄せられた様々な支援への感謝の気持ちを伝えようと、21日、ソウル中心部の屋外の舞台で太鼓の演奏に臨みました。

生徒たちは、津波で流されてしまった和太鼓の代わりに、古タイヤやテープなどで作った太鼓を使って、息の合った演奏を披露しました。

日韓の間ではこのところ、島根県の竹島を巡って外交関係が冷え込んでいますが、21日のイベントには大勢の観客が集まり、日本の被災地から訪れた子どもたちの熱演に温かい拍手を送っていました。

会場ではソウルの中学生たちも太鼓を演奏し、演奏を終えた両国の子どもたちは、握手をしたり一緒に記念撮影をしたりして交流を深めていました。

雄勝中学校の生徒会長の伊勢直也さんは、「これからも太鼓を通じた交流を続けたい。今度は韓国から日本を訪れてほしいです」と話していました。



報道紹介

FNN 2012年8月22日
宮城・石巻市の中学生が
韓国で太鼓披露
震災支援に感謝の気持ち



震災で支援を受けたことに感謝の気持ちを伝えようと、宮城・石巻市の中学生が韓国で太鼓を披露した。
石巻市の雄勝中学校の生徒たちは、津波で失った和太鼓の代わりに古タイヤを使った太鼓で力いっぱい演奏。韓国の人たちに感謝の気持ちを伝えた。
また、韓国の中学生も太鼓を演奏し、竹島問題などで日韓関係が悪化する中、両国の中学生たちは友好を深めていた。

中央日報 2012年8月21日

韓国を訪問した日本の大地震の被害を受けた学生達

21日午前、ソウルの市庁別館で、希望・夢 韓国の旅プレゼントで韓国を訪問した雄勝中学校の学生達が、パク・ウォンスン市長と対話をしながら明るく笑っている。昨年の東日本大震災当時、最も被害が大きかった石巻市に位置する雄勝中学校の学生たちは「希望・夢 韓国の旅プレゼント」を機会に自分たちを助けてくれた、韓国の人に感謝の気持ちを伝え、太鼓の公演を通し韓国とのより緊密な交流を持とうとソウルを訪問した。



河北新聞 2012年8月
復興支援に感謝 韓国で「輪太鼓」

復興支援に感謝
韓国で「輪太鼓」
石巻・雄勝中生
【ソウル共同】東日本大震災で韓国の復興支援に感謝を伝えようと、被災した石巻市雄勝中学校の生徒約40人が21日、ソウル市内の野外ステージで廃タイヤを使った「復興輪太鼓」を演奏した。竹島問題で日韓関係が冷え込む中で公演となったが、迫力ある演奏は、訪れた約300人の聴衆から大きな拍手が送られた。

雄勝中は校舎が津波に襲われ、費用していた太鼓も流された。代わりに廃タイヤにゼーニールテープを張った「輪太鼓」で練習を重ね、鎮魂と復興への願いを込めて各地で演奏している。津波で自宅を失った3年生の伊藤伏さん(13)は「(ここ)でこうして太鼓をたたくのも多くの方々の支援のおかげだ。今日は僕の演奏がきれいになり、感謝の気持ちがよくわかったと思う」と満更うに話した。これに先立ち、生徒らはソウル市役所を訪れ、朴元淳市長と面会した。朴市長は「大変な環境でも挫折せず、たくましく乗り切った皆さんの姿に感動した」と述べた。生徒らは19、23日の日程で訪韓し、韓国の中学生らとも交流。熊谷雅幸教諭は「出発前は保護者から不安の声もあったが、いざ来てみると皆さん親切で安心した。生徒にとっても忘れられない思い出になったと思う」と話した。



21日、東日本大震災での韓国の復興支援に感謝し、ソウル市内で「復興輪太鼓」を演奏する石巻市雄勝中の生徒たち





〈日本国内支援活動〉 GFSC 文化芸術による東日本復興支援プロジェクト

GFSC 希望の和太鼓プロジェクトⅠ <宮城県> 希望・夢 韓国修学旅行Present (2012.8.19~23)

報道紹介

東亜日報 2012年8月21日

「私たちの気持ちが韓国の友達にちゃんと伝わっているか気になります。最近韓国と日本との関係が良くないと知っていますが、これから争わずに仲良く過ごせるといいです。また韓国にもう一度来たいです。」
20日、午後ソウルの三政中学校の講堂で、合同練習を終えた横江（14）さんが笑顔でこう語った。彼女の前には、廃タイヤにビニールかぶせた太鼓が置かれていた。黒いシャツの背中には「たくましく生きよ」という白い文字が書かれていた。
昨年3月に発生した、東日本大震災の被害を受けた日本の宮城県石巻市の雄勝中学校 学生39名と教師 10名が、大地震当時、助けてもらった韓国の人々に感謝の意を伝えるため韓国を訪れた。

彼らは三政中の学生達との合同練習に先立ち、この日の午前、社会福祉共同募金会を訪問しキム・ジュヒョン事務局長に感謝の手紙を渡した。学生の代表として伊勢直也（15）君は「昨年の被害で家と学校を失い多くの挫折を覚えた、周囲の助けを借りて立ち上がるようになった。」とし「将来、日韓間の交流を促進するために貢献したい。」と語った。社会福祉共同募金会は、昨年の3月の大地震以降、国民送金募金運動を展開し、100億ウォンを超える金額を集め、日本の共同募金会に渡している。この送金は宮城県、岩手県、福島県、茨城県、千葉県など5県の被害復旧作業に使われた。

19~23日、韓国に滞在している学生たちは21日午後、鐘路区仁寺洞で三政中の学生達と合同公演を開き、この他に多様な文化交流活動も行う予定だ。

大地震が発生してから1年5か月が過ぎたが、今もなお雄勝中学校のグラウンドには地震と津波の跡がそのまま残っている。校舎が無く授業は、近くの高校で行っている。しかし、学生達は太鼓を通し、少しずつ希望をみつけている。太鼓で有名だった地方ですが、太鼓が全て波に押し流され、廃タイヤにビニールを巻いた太鼓を作り叩き始めた。彼らの太鼓の公演は放送を通し、日本の地域に紹介されながら絶望の淵にいた国民たちに希望を伝えた。

雄勝中学校の早坂信也（56）校長は「災害と怒りと絶望が、助けをいただいた皆様に対する感謝と希望に変わっています。おかげさまで、以前の生活を少しずつ取り戻している。」とし「本当に心から感謝申し上げます」と語った。

最近、冷却された日韓関係は、両国の中学生たちの間に何の問題にもならなかった。練習が終わり、韓国と日本の中学生たちは気兼ねなく、肩を組み一緒に写真を撮るのに忙しかった。三政中の学生たちは雄勝中学校の学生達の名前が一つ一つ書かれている韓国の伝統団扇をプレゼントし、日本の学生たちは「たくましく生きよ」と表面に書かれたファイルを渡した。

イ・ドゥス NPO法人日韓文化交流会 企画部長は「「たくましく生きよ」は、雄勝中学校の校訓で、東日本大震災が発生する2時間前に、当時雄勝中学校の校長が卒業式で、そのテーマで祝辞を読んだことで、その意味がより一層格別なものとなった。」と語った。NPO法人日韓文化交流会は「GFSC(Good Friends Save the Children) 希望・夢 韓国の旅プレゼント」のプログラムを通し、今回の日本の学生たちの訪問を企画した。

三政中 2年生 パク・ジヒョン(14)さんは「日本の学生に初めて会いましたが、私たちが思っていたイメージととても違っていました。今度は、私たちが雄勝中学校に行き行って公演をしたい。」と語った。



報道紹介

東亜日報 2012年8月21日

「私たちの気持ちが韓国の友達にちゃんと伝わっているか気になります。最近韓国と日本との関係が良くないと知っていますが、これから争わずに仲良く過ごせるといいです。また韓国にもう一度来たいです。」

20日、午後ソウルの三政中学校の講堂で、合同練習を終えた横江（14）さんが笑顔でこう語った。彼女の前には、廃タイヤにビニールかぶせた太鼓が置かれていた。黒いシャツの背中には「たくましく生きよ」という白い文字が書かれていた。

昨年3月に発生した、東日本大震災の被害を受けた日本の宮城県石巻市の雄勝中学校 学生39名と教師 10名が、大地震当時、助けてもらった韓国の人々に感謝の意を伝えるため韓国を訪れた。

彼らは三政中の学生達との合同練習に先立ち、この日の午前、社会福祉共同募金会を訪問しキム・ジュヒョン事務局長に感謝の手紙を渡した。学生の代表として伊勢直也（15）君は「昨年の被害で家と学校を失い多くの挫折を覚えた、周囲の助けを借りて立ち上がるようになった。」とし「将来、日韓間の交流を促進するために貢献したい。」と語った。社会福祉共同募金会は、昨年の3月の大地震以降、国民送金募金運動を展開し、100億ウォンを超える金額を集め、日本の共同募金会に渡している。この送金は宮城県、岩手県、福島県、茨城県、千葉県など5県の被害復旧作業に使われた。

19~23日、韓国に滞在している学生たちは21日午後、鐘路区仁寺洞で三政中の学生達と合同公演を開き、この他に多様な文化交流活動も行う予定だ。

大地震が発生してから1年5か月が過ぎたが、今もなお雄勝中学校のグラウンドには地震と津波の跡がそのまま残っている。校舎が無く授業は、近くの高校で行っている。しかし、学生達は太鼓を通し、少しずつ希望をみつけている。太鼓で有名だった地方ですが、太鼓が全て波に押し流され、廃タイヤにビニールを巻いた太鼓を作り叩き始めた。彼らの太鼓の公演は放送を通し、日本の地域に紹介されながら絶望の淵にいた国民たちに希望を伝えた。

雄勝中学校の早坂信也（56）校長は「災害と怒りと絶望が、助けをいただいた皆様に対する感謝と希望に変わっています。おかげさまで、以前の生活を少しずつ取り戻している。」とし「本当に心から感謝申し上げます」と語った。



最近、冷却された日韓関係は、両国の中学生たちの間に何の問題にもならなかった。練習が終わり、韓国と日本の中学生たちは気兼ねなく、肩を組み一緒に写真を撮るのに忙しかった。三政中の学生たちは雄勝中学校の学生達の名前が一つ一つ書かれている韓国の伝統団扇をプレゼントし、日本の学生たちは「たくましく生きよ」と表面に書かれたファイルを渡した。

イ・ドゥス NPO法人日韓文化交流会 企画部長は「「たくましく生きよ」は、雄勝中学校の校訓で、東日本大震災が発生する2時間前に、当時雄勝中学校の校長が卒業式で、そのテーマで祝辞を読んだことで、その意味がより一層格別なものとなった。」と語った。NPO法人日韓文化交流会は「GFSC(Good Friends Save the Children) 希望・夢 韓国の旅プレゼント」のプログラムを通し、今回の日本の学生たちの訪問を企画した。三政中 2年生 パク・ジヒョン(14)さんは「日本の学生に初めて会いましたが、私たちが思っていたイメージととても違っていました。今度は、私たちが雄勝中学校に行き行って公演をしたい。」と語った。

20日、午前ソウルのNソウルタワーで日本の宮城県石巻市雄勝中学校の学生達が望遠鏡でソウルを見学している。

報道紹介

スポーツ韓国 2012年8月13日

チョン・ヨンファ、パク・シネ、イ・ホンギ

GFSC '希望・夢 韓国の旅プレゼント' 行事に参加

ドラマ'美男ですね'の主人公達が、意義深い席に集まる。

グループ CNBLUEのチョン・ヨンファ、FTISLANDのイ・ホンギ、俳優パク・シネが21日、仁寺洞で昨年の東日本大震災で被害を受けた子供達を激励する。昨年3月、東日本大震災当時、被災地域に支援し元気を与えた彼らが、再び意味ある行事に参加する。

今回の行事はGFSC組織委員会で主催する'希望・夢 韓国の旅プレゼント'の一環として企画された。東日本大震災の最大の被災地である、宮城県石巻市の雄勝中学校の学生たちと関係スタッフなど80名あまりが参加する。チョン・ヨンファ、イ・ホンギ、パク・シネは、この日サプライズ登場し、学生たちにプレゼントを贈呈するなど激励予定だ。

GFSC側は“今回の旅は韓国の美しい山河を見て、災害による辛い過去を克服し、今まで声援を送り続けてくれた韓国国民に被災地域の住民たちを代表し、心からの感謝の意を伝える場になるだろう”と語った。

'希望・夢 韓国の旅プレゼント'は、19日から23日まで行われる。南山、弘大、徳昌宮、仁寺洞などソウルの主要地域を観光し、日韓交流のため文化公演も行われる。

